

祇園小学校 校長だより（第61号） 令和2年度第2号 令和2年4月15日

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

## 感染防止も大切、交通事故防止や避難時対応も大切

新型コロナウイルス感染症対策のため、朝の体温測定や健康観察、マスク着用などにご協力いただき、誠にありがとうございます。学校でも、手洗いやアルコール消毒、換気などの取組を今後も継続してまいります。

加えて、児童の命と安全を守るため、狭い道路では、車との接触を避ける1列歩行も実施しています。また、災害に備えての避難訓練も実施する予定です。感染症予防も大切ですが、命の危険が伴う交通事故や避難等の対応も大切だと考えますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

## あいさつの意義

本校の一校一徳運動は、「明るいあいさつ」です。文部科学省小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳」によると、あいさつは、礼儀との関連で次のように記載してあります。

礼儀は、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となって表れてこそ、そのよさが認められる。つまり、礼儀とは、心が礼の形になって表れることであり、礼儀正しい行為をすることによって、自分も相手も気持ちよく過ごせるようになる。

また、礼儀は、具体的には、挨拶や言葉遣い、所作や動作など作法として表現されるが、それは、人間関係を豊かにして社会生活を円滑に営めるようにするために創り出された文化の一つであるといえることができる。よい人間関係を築くためには、まず、相手に対して真心がこもった気持ちのよい対応ができなければならない。そのような対応は人としての生き方の基本であり、まずは大人が作法として教えることから始まる。それらを、さらに、例えば真心がこもった態度や時と場をわきまえた態度など礼節をわきまえた行為へと深めていくことが必要である。真心とは相手のことを親身に思いやる心であり、形となって表されることにより、誠意のある行為につながる。人との関わりにおいて、どのような振る舞いが好ましいのかを考えさせることは大切なことである。

礼儀との関連で、今後も、「明るいあいさつ」輪を広げていきましょう！

## 祇園歴史の旅（その61）「1周年の祇園小とその時代」

祇園小学校沿革史によると、平成14年6月にパソコンが設置され、7月には校内LANが稼働いたしました。平成15年1月には、まどか教室30周年記念式典が開催されました。3月には、本市の姉妹都市である米国アルバカーキ市の青少年との交流が行われ、ホームステイや文化交流が行われています。当時から国際色豊かな学校だったようです。

また、インターネット記事によると、当時の主な出来事は次のとおりです。平成14年4月学校5日制で毎週土曜日が休みとなる。5月31日サッカーW杯日韓大会開幕。9月17日小泉首相初の日朝首脳会談。10月8日小柴昌俊氏ノーベル物理学賞受賞、10月9日田中耕一氏ノーベル化学賞受賞。

10月15日拉致被害者5人帰国。平成15年3月12日WHO新型肺炎SARSの流行で注意喚起。

次回は、「2周年の祇園小とその時代」と題して、2周年年度の祇園小学校の出来事や平成15年4月～16年3月までの日本内外の主な出来事などをご紹介します…。